



台湾の夕日



ぎょうかがい
饒河街観光夜市

今年の春は寒い日が多かった。福島市では節分を過ぎてても雪が降り、梅の開花も遅れ気味であった。「どこか暖かいところに行きたいなあ。できれば近くて、安くて、おいしい物が食べられるところ……。そうだ、台湾へ行こう！」

台湾観光局のキャッチコピーに乗せられ、私は3月の上旬に台湾最大の都市である台北を旅した。

気温29度

福島市を出発する朝、前日の雪は消えていたが、まだかなり寒かった。やはり自動車の冬タイヤを交換しないでよかった。

何日か前から台湾の気温を調べていたが、最高

気温は25度を超える日が続いている。このように自宅と旅先の気候に差があるとき、旅の服装の準備は難しい。寒がりの私は下着からコートまで完璧な冬支度。トランクの中には夏の下着と半そでシャツ。そして帰ってきてからの服装も準備して……。

台湾の位置は沖縄の島々の南、そしてフィリピンの北。成田空港を飛び立った飛行機は3時間もしないうちに台北国際空港の上空に差し掛かる。着陸前に機長のアナウンスが流れる。「現地の天候は曇り、気温は摂氏29度。」機内のあちこちからざわめきが起きる。「気温29度もあるんだって！」

飛行機を出ると湿気を帯びた空気がまとわり

ついてくる。自分の肌が汗ばんでくるのが分かる。出迎えのガイドさんに案内され、台北中心部のホテルに向かう。雑然とした街の様子はいかにもアジアだ。原色の看板やネオンが雰囲気を出している。送迎用のワゴン車の中は、半そでシャツの運転手さんにはちょうど良い温度なのだろうが、私の冬の下着はジットリと汗ばんでくる。早く着替えをしたい……。

名物の夜市へ

ホテルで着替えを済ませると、さっそく台北名物の「夜市」へ向かった。場所は国鉄台北駅から1つ先の「松山」である。

台湾は鉄道網が発達しており、列車での旅が便利である。切符は自動販売機で買うのであるが、押しボタンに書かれた表示を類推するのが面白い。漢字は読めるが意味は分からない。「私は子供ではない、老人でもない。行き先は次の駅である。……エイこれだ！」とボタンを押すが、大抵の場合これで大丈夫である。もし間違っても、外国人の場合はニコリ笑って許される(ことが多い)。台北駅を発車した列車は10分ほどで松山駅に到着する。乗り心地は驚くほどスムーズである。

台北市内には多くの「夜市」があり、観光客の

中にはこれを目当てに日本から来られる方も居ると聞く。松山駅前にある「饒河街観光夜市」を選んだのは、「交通至便」を優先したことによるが、存外これが正解であった。まず、通りの入口を飾る門がいい。ケバケバしく輝き、目一杯アジアを主張している。隣の「慈祐宮」もアジア風の光に彩られ、キラキラ輝いている。

通りの主役は食べ物やデザートの屋台と、旺盛に胃袋を満たす人々の熱気である。不思議なことに酒を飲んでいる人はほとんど見かけない。皆、元気一杯食べている。顔のホクロとり、ムダ毛とりの店にもたくさんの客が居る。日本で言うところの「縁日」が毎晩開催されているような景色である。お祭り好きの人には是非お勧めしたい。

快適なマナー

台北市内では人々のマナーの良さをあちらこちらで目にした。まず、地下鉄のホームで、乗客はドア（ホームに転落防止のドアがある）の脇に並んで立ち、出入り口を大きく開けて待っている。車内では年配者などに若者が席を譲る姿も多く見られた。国鉄の駅や車内でも同様で、大声を出す客もなく、気分よく利用することができる。

前述の「夜市」では、道の両側数メートルおき



エネルギーな夜市



地下鉄ホームで待つ乗客



きれいに並んで信号待ちをするバイク

にゴミ袋が設置され、道路にはゴミがほとんど落ちていない。「夜市」の喧騒との比較において、この清潔感は驚くほどである。最近、公德心に陰りの見えはじめた日本人は、この点大いに見習うべきであろう。

圧巻は交通マナーの良さである。何かゴチャゴチャとした言葉にならない「混沌」というのもアジアの1つの魅力であるが、この街では不思議な光景を見ることができる。朝の散歩の際、信号待ちをするバイクの姿に感動して、思わず撮影した写真を見て欲しい。こんなに完璧な「信号待ち」は世界中どこを探してもないだろう！ この交通マナーの良さの理由を知る人には、その原点をぜひ教えて頂きたい。

中台接近

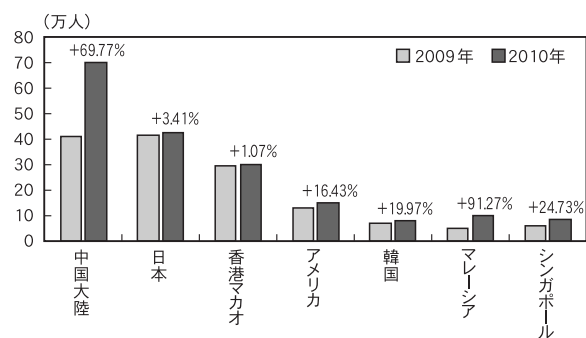
2009年10月から、台北市の国立故宮博物院で歴史上初めての中台合同特別展が開かれた。この特別展には北京側から清朝皇帝に関する貴重な収蔵品が多く貸し出され、台北側収蔵の品々と併せて内容の充実した展覧会となり、大陸から多くの観光客が殺到した。私が訪れた日も、大陸からの団体客と見られる集団が次々やって来て、時間の経過と共に大変な混雑になった。国立故宮

博物院の成り立ちには複雑な歴史があり、台湾・大陸双方の人々にとっては様々な想いが去来するものと推察される。しかし、台北と北京双方の収蔵品を同時に見ることができるのは、中国文化を知る上で大変貴重な機会である。

台湾交通部観光局の統計によると、2010年1～5月に台湾を訪れた旅客は延べ約226万人で、昨年同期に比して+26.3%となった。特に中国大陸からの旅客は前年比約7割の大幅増加となった。台湾当局は、従来、大陸からの観光客受け入れに対して厳しい制限を課していたが、現政権発足以来、様々な規制緩和を実施した。中国側においても、台湾観光を許可する地域(省・直轄市など)を順次拡大し、現在では多くの地域から台湾観光が可能となっている。さらに、中台間の海運・空運直行便の拡充も進められ、多くの港・空港が直行可能となった。

2010年6月の新聞には、中国重慶市で「経済協力枠組み協定(ECFA)」合意文書を交わし、笑顔で握手する中国・台湾双方の代表者の写真が掲載された。米国アップル社の携帯音楽端末 ipod は台湾企業の中国工場で作られていると聞く。これまでも台湾企業の中国進出などが何度も話題となったが、今回の協定締結を機会に経済面での

2009—2010年1—5月
各国/地域別 訪台外客の増減状況



台湾交通部観光局の統計により当研究所作成

中台接近は今度も続いていくのであろう。

台湾海峡の夕日

旅の最後に台北市北部の「淡水」を訪れた。ここは、台北市内を流れる淡水河が台湾海峡へ辿り着く河口の街で、「漁人碼頭」という突端部分の漁港から眺める夕日が名物となっている。最近では地下鉄（郊外では地上を走る）で行くことができ、若者達のデートコースになっている。

駅から続く「老街」には海沿いの街らしく、魚市場や海産物料理店などが並び、あちこちから美味しそうな香りが漂ってくる。名物の「魚丸湯（魚団子入りスープ）」はあっさりした素朴な味で、小腹を満たすのにちょうど良い。

しばらくブラブラ歩いていると、高台に赤レンガ造りの洒落た洋館を見つけた。今回の旅で、まだ台湾名物のマンゴーアイスを食べていないのを思い出し、立ち寄ることにした。店のパンフレットによれば1856年英仏連合軍と清朝軍との間で天津条約が締結されたのを契機に、この地に洋館が建てられたとある。3階のオープンテラスには、ヨーロッパからの客が多くくつろいでおり、ここがアジアの一角であることを忘れてしまう。

台湾を表す英語名に Formosa（美麗島）という



淡水名物のソフトクリーム

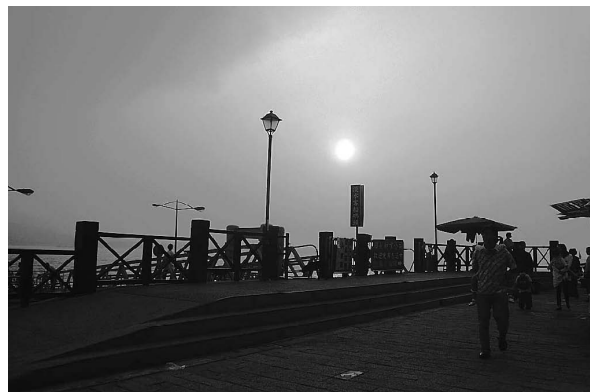
言い方がある。その語源は、台湾海峡の向こうにこの島を眺めたポルトガル人が“*Ilha Formosa*（島、美しい）”と叫んだことに由来するという。この島は古くからいろんな国からの侵略を受けた。スペイン、オランダ、イギリス、中国大陸そして日本。それらの国々の影響を少しずつ残しながら、人々はたくましく生活している。

台湾海峡に沈んでゆく夕日は、輝きを落としながら海面を赤く染めていく。海の向こうにある大陸と人・物・資本などの往来を活発にしながら、この島は「大中華圏」の一員として今後ますます発展していくのであろう。この次は大陸側から台湾海峡を挟んでこの島を見たいと思った。

（担当：若狭）



赤レンガの洋館「紅樓」



台湾海峡の夕日